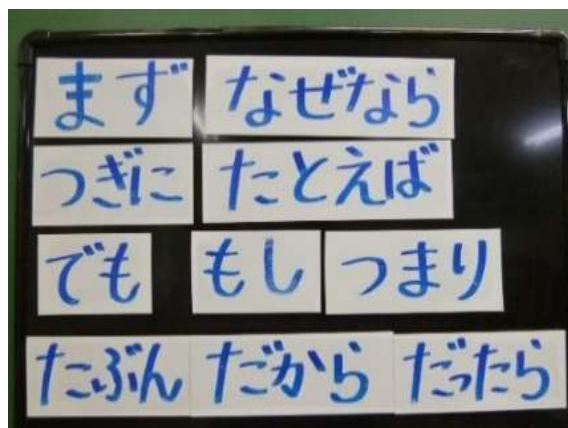


通常の学級で実践できる！

みんなが「分かる」、「できる」授業づくり 取組事例



よりよい学級経営、授業づくりの推進



通常の学級における
「特別」ではない支援教育

令和6年（2024年）3月

北海道教育委員会

みんなが「分かる」、「できる」授業づくりが求められる訳

文部科学省が令和4年12月に公表した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」結果から、小・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒の6.5%、高等学校に在籍する生徒の1.3%は学習面で著しい困難を示していることが明らかとなりました。そのため、どの学級にも特別な教育的支援を必要とする児童生徒がいることを前提に、全ての教員が特別支援教育に関わる理解を深め、指導方法を工夫できることが求められています。

① 北海道の現状

○ 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の割合

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	全体
令和4年度	7.4%	8.8%	3.1%	0.8%	5.3%
令和3年度	6.7%	7.7%	2.7%	0.8%	4.8%
令和2年度	6.1%	6.9%	2.4%	0.9%	4.3%

※校内委員会において特別な教育的支援が必要と判断された幼児児童生徒
※幼稚園は、公立幼稚園、認定こども園、調査協力のあった私立幼稚園

○ 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の困難さ

	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	内容	割合	内容	割合	内容	割合	内容	割合
1位	注意集中すること	59.9%	注意集中すること	34.9%	対人関係やこだわり等があること	38.4%	対人関係やこだわり等があること	45.8%
2位	対人関係やこだわり等があること	56.0%	対人関係やこだわり等があること	34.2%	計算すること	33.5%	注意集中すること	24.1%
3位	聞くこと	38.9%	書くこと	31.6%	推論すること	33.3%	推論すること	16.9%

・令和4年度（2022年度）「特別支援教育体制整備に関する調査」の結果

② 特別支援教育に関する校内支援体制の充実

全ての教師が、障害のある児童生徒を含め多様な児童生徒が通常の学級に在籍していることを前提として、全ての児童生徒に対し、高い学習成果が得られるようわかりやすい授業づくりを進め、通常の学級において安全・安心に学ぶことができるよう、多様性を尊重した学級経営が求められる。

・「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議」報告（2023年3月）

分かる喜びや学ぶ意義を実感できない授業は児童（生徒）にとって苦痛であり、児童（生徒）の劣等感を助長し、情緒の不安定をもたらし、様々な問題行動を生じさせる原因となることも考えられる。教師は、児童（生徒）一人一人の特性を十分把握した上で、他の教師の助言や協力を得て、指導技術の向上、指導方法や指導体制などの工夫改善を図り、日ごろの学習指導を一層充実させることが大切である。

・小学校（中学校）学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編（平成29年7月）

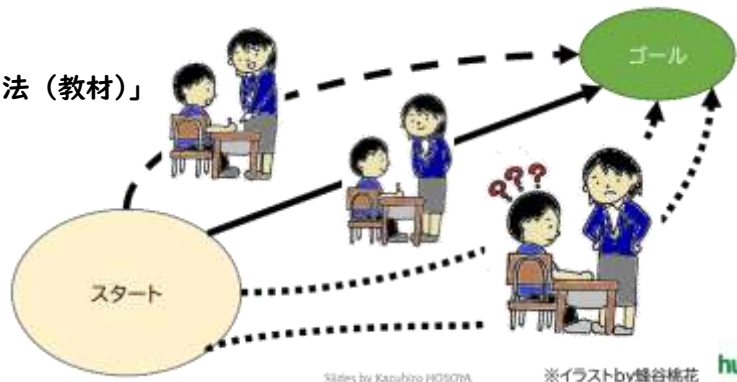
2 みんなが「分かる」、「できる」授業づくりに向けて

「多様な子どもが存在」＝「多様な方法（教材）」

※一人一人の解決の方法が異なる

※一人一人の理解の方法が異なる

※一人一人の理解の程度が異なる



① 学級集団づくり（雰囲気づくり）

- ・落ち着いて過ごせる学級集団（ルールの特明確化）
- ・間違いや分らないことを否定的に見ない学級集団（分らない、間違いが人間の進歩成長過程）
- ・学び方の違いを認め合える学級集団（個に応じた学び方／解決方法がある）

② 教室・学習環境づくり

(1) 教室環境づくり

- 教室の物理的な環境（環境刺激の量）
 - ・黒板回りはスッキリとする
 - ・授業用の黒板と掲示用の黒板を使い分ける（板書の明確化）
 - ・教卓に余分なものは置かない（**子どもの目線**で不要な物は視界に入れない）

(2) 学習環境の整備

- 教室の物理的な環境（環境のルール） ⇒何をどこに？何を準備？を明確に示す。
 - ・持ち物の置き場を明示 ⇒ランドセル、靴箱など・・・
⇒そこ... ってどこ？
 - ・個人の持ち物の整理を明示 ⇒机の中を箱で仕切る。
 - ・プリントの整理の仕方を指導 ⇒ファイルに入れる。
 - ・授業の準備物を**視覚的**に示す。⇒授業が始まっても準備ができていない子はいませんか？
⇒授業終了後の日直の仕事

視覚的に示せば良い...と言うものではない。

⇒子どもにとって分かりやすいものでないと意味がない。

【日程表の工夫】

時間	教科	時間	教科	内容
	朝の会		朝の会	おはようございます
1	国語	1	国語	P10～P20
2	算数	2	算数	P35～P38
	中休み		中休み	着替えておく
3	体育	3	体育	体育館でサッカー
4	社会	4	社会	P18～P21
	給食		給食	1班が当番
	昼休み		昼休み	体育館が使用可
5	理科	5	理科	理科室で実験

③ 授業づくり

(1) 授業の見通し（この時間の見通し／学習の手順／終わりはどこ？）

- ・ 授業目標の**共有化**／**焦点化**（先生は何を求めているのか？）
- ・ この時間の活動を板書で明示
 - ◆この時間に何を学ぶの？
 - ◆どの手順で活動するの？
 - ◆次に何をするの？
 - ◆どこで終わりなの？

(2) 指示と説明＋独り言？（抽象的な指示、量）

- ・ 指示の具体性（言わなくても分かるよね？ 子どもが何をすればよいのかが分かる）
- ・ 指示の前置き（大切なことを〇個、言います）
- ・ 終わったら何をするのかを事前に明示
- ・ **1つの事に対して何通りもの教示を心掛ける。** ※言い方（説明の仕方）を変えて教示

④ 分かりやすい視覚的手がかり（子どもが分かる視点）

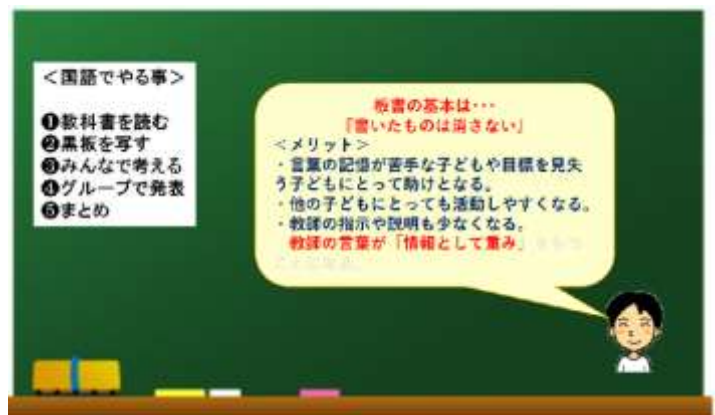
○ 板書の工夫

- ・ 「め（めあて）」「ま（まとめ）」はよく使われている。
- ・ 書いたものは消さない。
- ・ 書き方を工夫する。
 - ※子どもから見て分かりやすい板書
 - ※教師の板書と子どものノートは別物
 - 子どもは黒板を再現しているわけではない。

※黒板とノートは縦横のサイズが異なる。

○ 子どもに操作させることの重要性

- ・ 手を動かして確認してみる（**動作の感覚を活用**）
- ・ 「ICT」のメリット／デメリットの確認 ※発展問題として端末の活用



⑤ 個の特性に合わせて「基礎」と「発展」（授業展開）

- ・ ワークシートの工夫
- ・ 理解の程度に合わせたヒント
- ・ 学習量／作業量の工夫
- ・ 「全員が取り組む問題」と「チャレンジ問題」
- ・ 早く終わった子どもに対する次の課題

・ 細谷一博（2023年）「ユニバーサルデザインの視点からの授業づくり」（第3回管理職のための特別支援教育に関する研修会）スライド資料から引用

3 みんなが「分かる」、「できる」授業づくりチェックシート

みんなが「分かる」、「できる」授業づくりに向けて、まずは普段の授業について、次のチェックシートを活用して、できている取組、できていない取組を確認し、できることから取り組んでみましょう。取組に当たっては、次ページの4以降の取組事例を参考にしてください。

	項 目	具体的な取組内容	チェック
学級環境	① 場の構造化	○ 教材の場所や置き方などが一目で分かるように整理されている ○ 児童生徒の実態に合わせた座席配置をしている	
	② 刺激量の調整	○ 教室内の掲示物は必要最小限なものにし、整理されている ○ 教室内の掲示物や棚などは、余計な刺激にならないよう配慮されている	
	③ ルールの明確化	○ 学習規律（学級内の約束事）を決めている ○ 学習規律（学級内の約束事）定着のための指導を継続的に行っている	
	④ 学級内の相互理解	○ 「分からない」、「教えて」と言える学級の雰囲気が作られている	
授業における指導方法	⑤ 時間の構造化	○ 授業の始めに内容の進め方について全体的な見通しを提示している ○ 授業の流れの中で、今、何が行われているかが分かる工夫をしている	
	⑥ 焦点化	○ 授業のねらいを絞り、本時で「何ができるようにになればよいか」が分かるようにしている	
		○ 児童生徒が取り組みたい、考えたいと思えるよう、本時のねらいや学習課題の提示方法を工夫している	
		○ 提示する資料等は、情報が多過ぎず、必要な内容を精選している	
		○ 指示や説明は分かりやすく、簡潔で短くしている	
	⑦ 展開の構造化	○ 本時のねらいを達成できるよう、学習活動の配列や時間配分を工夫している	
		○ 集中力を持続できるよう、活動の切り替えを工夫し、授業展開にメリハリを付けている	
		○ 振り返りでは、児童生徒に「分かった」、「できた」という達成感をもたせる工夫をしている	
	⑧ スモールステップ化	○ 課題達成までのプロセスに細かな段階を設定している	
		○ 必要に応じて具体例やモデル、ヒントの提示、考え方の共有等の工夫を行っている	
	⑨ 視覚化	○ 学習内容を目で見て確認・理解できる工夫をしている	
		○ 指示や説明は聴覚的（言葉）だけでなく、視覚的に提示している	
		○ 重要なことはメモさせる、メモを渡すなど、記憶に負担がかからない工夫をしている	
	⑩ 感覚の活用	○ 見る、聞く、話す、読む、書く、触る、動くなどの活動を通して多様な感覚を使い、理解を深める工夫を行っている	
	⑪ 共有化	○ ねらいに応じてペア学習、グループ学習を取り入れ、子ども同士が関わり合い、学び合い、教え合う場を設定している	
	⑫ 学習方法の選択	○ 理解度に応じたプリントなど、難易度の異なる活動内容や課題を用意し、児童生徒が選択できるようにしている	
		○ 課題解決に向け、個人で思考する、ペアやグループで話し合う、教師と一緒に取り組む等、学習方法を児童生徒が選択できるようにしている	

4

みんなが「分かる」、「できる」授業づくり取組事例 注意・集中の持続が難しい児童生徒への指導の工夫

取組事例①

注意・集中することの困難さ

場面・教科

各教科

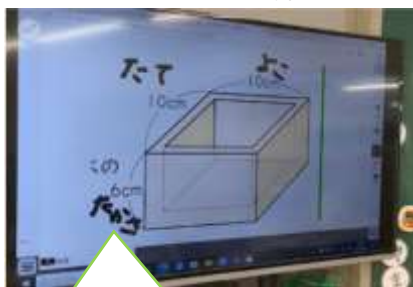
困難の背景として考えられること

- ・様々な刺激を受けて、次々と衝動的に行動してしまう。
- ・1つの部分に強く注目してしまい、次の活動や話に注意を移すことが苦手である。

授業における指導方法 の工夫のポイント

- ⑤ 時間の構造化
- ⑥ 焦点化
- ⑨ 視覚化
- ⑩ 感覚の活用
- ⑪ 共有化

○ 困難さを支援するICTの活用



情報を精選し、児童が必要な情報に注意を向けられるよう、ICTを活用した資料提示の工夫（焦点化、視覚化）

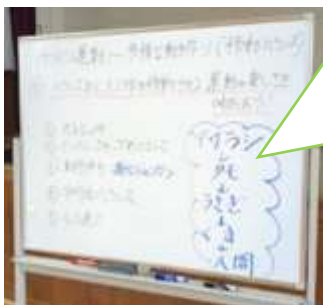


集中を持続して活動に取り組めるよう、ICTを活用し、児童が注目したい部分等を拡大して見られる工夫（視覚化、感覚の活用）



児童同士が関わり合い、学び合えるよう、スライドを共同編集して作成し、担当箇所を明確にする工夫（視覚化、共有化）

○ 全ての児童にとって分かりやすい授業づくり



見通しをもてるよう、1単位時間の授業の進め方等を提示し、児童が確認したり、理解したりできる工夫（時間の構造化、視覚化）



多様な感覚を使って理解を深められるよう、具体物を実際に見たり、触ったりするなど、児童の理解を深める工夫（感覚の活用）

期待される効果

- ・個別の困難さに応じてICTを活用したり、見通しをもたせたりすることにより、全ての児童が安心して学ぶことができる。

学習に集中して取り組むことが難しい

場面・教科

各教科

困難の背景として考えられること

- ・聴覚からの情報（言葉）が多く、授業の流れや活動内容に見通しをもちづらい。
- ・他の児童の様子が視界に入るなど、周囲の様子が気になる。

授業における指導方法
の工夫のポイント

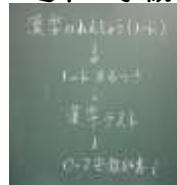
- ① 場の構造化 ② 刺激量の調整
- ⑤ 時間の構造化 ⑥ 焦点化 ⑦ 展開の構造化
- ⑧ スモールステップ化 ⑨ 視覚化

○ 時間・展開の構造化を通して見通しをもって活動に取り組めるようにする

学習内容の視覚化



通常の学級



時間の視覚化

活動時間に見通しを
もてるよう取り組む時
間を可視化する。
(視覚化)



通常の学級



授業冒頭に内容や進め方を示す。
(時間の構造化、視覚化)
集中力を持続できるよう、授業展開にメリハリをつける。
(展開の構造化、スモールステップ化、焦点化)

特別支援教育の視点を通常の学級の指導に生かす

○ 学習環境の整備



特別支援学級

「江小スタンダード」(校内の共通ルール)
「必要なものをきれいに机
の上に置いている」

掲示物や机の上に置くものを必要最小限に整理する
などの工夫をする。(刺激量の調整、場の構造化)

通常の学級



期待される効果

- ・学習活動や活動時間の見通しをもちやすい環境を整え、活動に集中できるようにすることで、主体的に学習活動に取り組むことができる。

集中力を持続させることが難しい

場面・教科

社会科、理科

困難の背景として考えられること

- ・学習内容の見通しがもてない。
- ・取り組むべきことが分からない。

授業における指導方法 の工夫のポイント

- ⑥ 焦点化 ⑦ 展開の構造化
⑨ 視覚化 ⑩ 感覚の活用

○ 授業スタイルのパターン化（社会科）

- ①前時までの復習（復習プリント又は宿題ノートの解答）
- ②本時の内容（教科書の音読）
- ③本時の内容（プリント：実施→解答）
- ④本時の内容（板書）
- ⑤本時の内容（プリント、ワーク等への取り組み）

休み時間のうちに、黒板に本時の課題を板書。生徒は、始業チャイム前から授業に向かう気持ちを整えられる。

毎回同じ授業の流れなので、見通しがもちやすい。
（焦点化、展開の構造化、視覚化）

○ 宿題ノートの活用（手作り問題集の作成、取り組み）（社会科）

- ・1人1冊、教科ノートとは別のノートを準備
- ・宿題プリント～図や表は切り貼り、問題文は手書きでノートに記入
～答えをノートに記入し提出
～定期テスト前等にノートを回収、チェック

「見る」「聞く」「読む」「書く」等の活動を毎回取り入れている。
（感覚の活用）

→評価材料になることはもちろんのこと、家庭学習で何に取り組んだら良いか分からない生徒にとって、取り組みやすい。ノートを見返したり、解き直したりすると定期テストや学力テストの勉強にもなる。

（視覚化）

○ ICT を活用し、視覚的に分かりやすい提示（理科）

- ・教科書を読んだり、板書を写したりする活動の後に、動画で本時の内容の確認を行う。
- ・動画を見ることでイメージしやすく、知識の定着を図りやすい。

期待される効果

- ・授業の見通しをもつことで、集中力が持続する。
- ・学級全体が落ち着いて学習することで、ざわざわする環境が苦手な生徒はもちろんのこと、学級全体が授業に集中して取り組むことができる。

課題に向き合い、取組を持続することが難しい

場面・教科

各教科

困難の背景として考えられること

- ・多動性、衝動性が強く、興味・関心のあることに気をとられてしまう。
- ・取り組むべき課題に興味をもてない時間がある。
- ・家庭や兄弟関係に不満を抱えている。

授業における指導方法
の工夫のポイント

- ① 場の構造化 ⑤ 時間の構造化 ⑥ 焦点化
⑨ 視覚化 ⑩ 感覚の活用 ⑪ 共有化
⑫ 学習方法の選択

○ 児童が学習方法や学習環境を選択
できる場の工夫

勉強をする場所や遊ぶ場所等の空間を分け、場所と活動をマッチングする工夫
(場の構造化)



興味を引くものや友だち等の視覚への刺激を避けた、座席配置の工夫
(場の構造化、共有化、学習方法の選択)

○ 児童が主体的に学ぶことができる学習課題の提示

ちょっとイヤでも頑張る！

1. 学習ドリル (10 ページ)
2. 教科書 (練習問題 2 番)
3. ルービックキューブ
(タブレットを見ながら)

個に合わせた学習のねらいや具体的な学習内容を提示して、活動に見通しをもたせる工夫
(時間の構造化、焦点化)

○ 個の課題解決を図るための効果的なICT活用

児童がより具体的に必要な情報をつかむことができるよう、ICTを用いた動画教材等の視覚的な情報を活用し、状況を整理しながら言語化する工夫
(視覚化、感覚の活用)

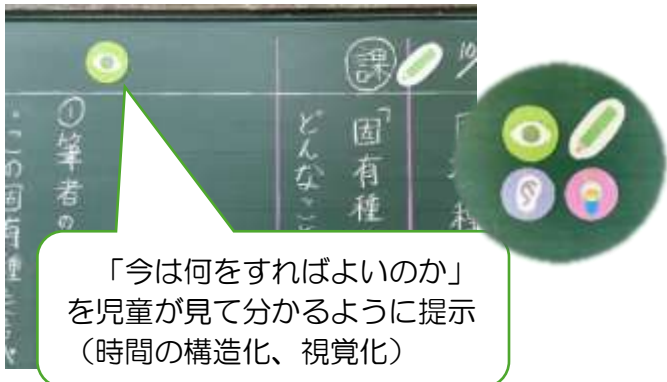
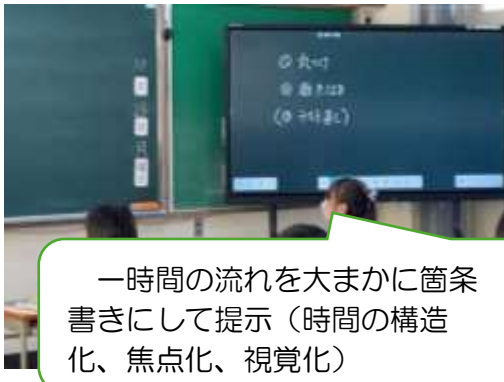
理科の学習



期待される効果

- ・落ち着いて課題に向き合い、短時間の取組を継続することで、自分の変容を実感し、意欲を高めていくことができる。

一斉指導の指示を聞き逃してしまうことが多い

場面・教科	各教科
困難の背景として考えられること ・集中力の持続が難しく、教師の話に注意を向けて聞くことができない。 ・言語理解に困難さを抱え、指示の内容を理解することが難しい。	
授業における指導方法 の工夫のポイント	⑤ 時間の構造化 ⑤ 焦点化 ⑧ スモールステップ化 ⑨ 視覚化 ⑪ 共有化
○ 「見る」「聞く」「書く」を視覚化 	○ 簡潔に見通しをもたせる 
○ ICTを活用し、視覚的にできる支援 	○ 注目させてから話す 
	○ ペアで確認→活動 
期待される効果 ・視覚的支援を多く取り入れ、児童が活動の内容やねらいを自分で確認することで、意欲的に学習活動に取り組むことができる。 ・指示を聞き逃すことの多い児童でも見通しをもてる環境をつくることで、全ての児童にとって分かりやすい授業づくりにつながる。	

取組事例⑥

注意を持続させることが困難で、教室に入れない

場面・教科

登校後の荷物整理、各教科

困難の背景として考えられること

- ・学習内容が分からない、興味がもてないと課題に取り組めない。
- ・聴覚の過敏さと衝動性があり、騒がしくなると教室を飛び出してしまう。

授業における指導方法 の工夫のポイント

- ① 場の構造化
- ② 刺激量の調整
- ③ ルールの明確化
- ⑤ 時間の構造化
- ⑨ 視覚化
- ⑫ 学習方法の選択

○ 朝の準備の手順を、写真と文字で 分かりやすく提示



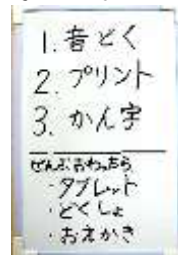
- ① ランドセルをおく
- ② つくえのなかに 入れる
- ③ ていしゅつ (れんらくちょう)
- ④ しまう (ランドセルをたなに)

児童が自立して取り組めるよう、視覚的に支援するとともに、言葉掛けを最小限にする。
(視覚化、ルールの明確化)

○ 本人が意欲的に取り組める課題 やスケジュールの示し方の工夫



※一日の流れ



※一時間の流れ

活動や余暇の内容を自分で選択できるようにする。
(視覚化、ルールの明確化、時間の構造化、学習方法の選択)

不安定になってしまったときに落ち着いて過ごせる場所を設定する。
(場の構造化、刺激量の調整)

○ 校内で安心して過ごせる場所を設定



校内で物陰にかくれてしまう



安心して過ごせる場所

○ イヤーマフを使い、刺激量を調節



イヤーマフの使用

期待される効果

- ・自分のスケジュールや活動の手順に見通しをもち、行動できるようになる。
- ・刺激量を調整することで、不安定になってしまってもクールダウンしてから学習に向かうことができるようになる。

5

みんなが「分かる」、「できる」授業づくり取組事例 言葉で表現することが難しい児童生徒への指導の工夫

取組事例⑦

自分の気持ちを言葉で表現することが難しい

場面・教科

各教科

困難の背景として考えられること

- ・指示が理解できず、言葉が出てこない。
- ・自分の感情を言葉で相手に伝える経験が乏しい。

授業における指導方法

⑥ 焦点化

⑧ スモールステップ化

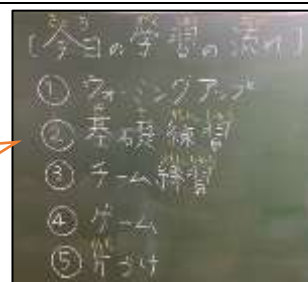
の工夫のポイント

⑩ 感覚の活用

⑪ 共有化

○ 指示や説明は分かりやすく、簡潔にする

複数の指示でパニックにならぬよう、端的で分かりやすい指示や説明の工夫（焦点化）



○ 必要に応じて具体例やヒントを提示する

自分に近い意見を発見することができるよう、複数の具体例やヒントを示す工夫（スモールステップ化）

○ ペア学習、グループ学習で伝え合う

仲間の意見を聞いて学んだり、思いを書いて伝えたり、まとめたことを発表したりするなど様々な感覚や言葉を使って伝え合う機会をつくる工夫

共感的に聞き合う活動を通して、自分の意見に自信をもたせる工夫

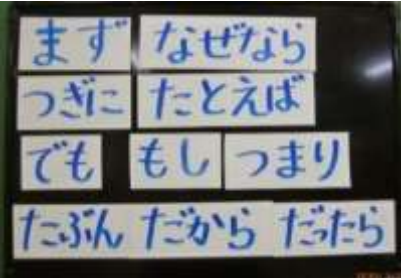
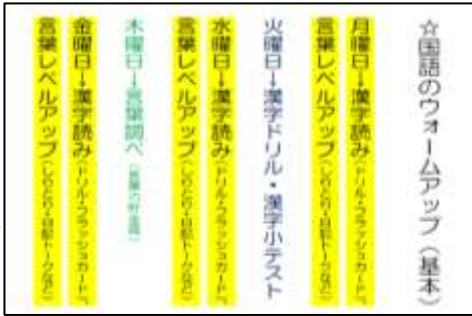
（共有化）（感覚の活用）



期待される効果

- ・様々な場面で対話をする機会を設定することにより、仲間の意見から多くのことを学ぶだけでなく、自分の気持ちに自信をもって伝えることができる。

相手意識をもって「話す」、「聞く」ことが難しい

場面・教科	各教科、学校生活全般
困難の背景として考えられること	
・コミュニケーションへの意欲が低く、語彙が乏しい。 ・多動性・衝動性が強く、集中力を持続する力が弱い。	
授業における指導方法の工夫のポイント	① 場の構造化 ③ ルールの明確化 ⑤ 時間の構造化 ⑧ スモールステップ化 ⑨ 視覚化 ⑪ 共有化
○ 分かりやすく話す・聞くための順序を表す言葉やつなぎ言葉の提示 話す内容を整理して、分かりやすく話したり、聞いたりするための掲示物の工夫（スモールステップ化、視覚化） ○ 多様な活動を組み合わせる  漢字ドリル読み  日記トーク 集中力を持続し、語彙力や話す・聞くことへ興味・関心をもてるような学習活動の工夫（時間の構造化、共有化、スモールステップ化）	
○ 見通しや安心感をもって学習活動に参加できる活動内容の提示 児童が見通しをもって取り組むための活動内容の工夫（場の構造化、ルールの明確化、時間の構造化）	  
期待される効果	
・つなぎ言葉や順序を表す言葉を示すことで、話の内容によって繋ぎ合わせたたり、話す順番をスモールステップで整理したりしながら会話ができる。 ・曜日ごとに取り組む内容を設定することで、見通しをもつことができ、集中して学習活動に参加することができる。	

やりとりの方法が分からない

場面・教科	係活動（特別支援学級在籍生徒）
困難の背景として考えられること	
・どのタイミングで、どのような言葉を使って話をすれば良いのか分からない。 ・どのような内容を聞き取り、どのように発表すれば良いのか分からない。	
授業における指導方法の工夫のポイント	⑥ 焦点化 ⑨ 視覚化
○ 扱いやすい教具の活用（教科連絡カード） ①授業終わりに教科担任へ、次時の連絡事項を聞き取る。 ②聞いた内容をカードに鉛筆で書き入れる。 ③支援担当教員が、内容をまとめて付箋に記入する。 ④付箋を見ながら、帰りの会で次時の連絡事項を学級で発表する。 ※連絡カード～A6版の硬質クリアファイルを使用。 ～使用する言葉、順序が書かれた紙をファイルに挟む。 ～表面に鉛筆で記入できる用紙を貼る。 ～クリップにリングを通したものを付け、机の横のフックに掛けられるようにした。	
期待される効果	
・明らかに支援されているという感じを見せずにスマートに係活動を遂行できる。 ・確実に係活動を遂行し、教師から賞賛されることにより、別の活動への意欲や自信に繋がる。	

6

みんなが「分かる」、「できる」授業づくり取組事例 「読むこと」、「書くこと」が難しい児童生徒への指導の工夫

取組事例⑩

文章の音読が難しい

場面・教科

各教科・読む場面

困難の背景として考えられること

- ・漢字の読み方が覚えられない。単語のまとまりをとらえることが難しい。
- ・行をとばして読んでしまう。

授業における指導方法 の工夫のポイント

⑩ 感覚の活用

⑫ 学習方法の選択

○ 文字や文章を音声化して理解を促す



グループで読み合う活動



CD による範読

文章の読み上げや
ICT を活用して音声化
することで内容理解を
補助する工夫
(感覚の活用)

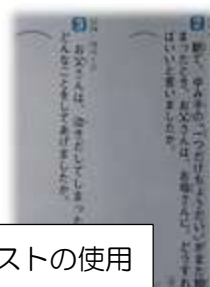
○ 読みやすい方法を選択できるようにする



指でなぞって読む



ルビ付きテストの使用



ルビ付きテストの使用、補助具の使用、読んでいるところを指でなぞるなど、自分の読みやすい方法の選択（学習方法の選択）

期待される効果

- ・自分に合った学び方を選択でき、学習の理解が深まる。(自己選択・自己決定)
- ・学級全体における多様性の理解と、児童の「できることに目を向ける」という視点が育つ。

平仮名の読み書きが困難

場面・教科

自立活動

困難の背景として考えられること

- ・発達の段階が年齢に相当していないため、学習能力や技能が低く、平仮名の読み書きに対する意欲が低い。
- ・パソコンの学習は好きだが、文字数と数を一致させることができず、キーを打つことが上手くできない。

授業における指導方法 の工夫のポイント

- ⑤ 時間の構造化 ⑥ 焦点化 ⑦ 展開の構造化
⑧ スモールステップ化 ⑩ 感覚の活用

○ 読み書きへの抵抗感を軽減させ、モチベーションを保たせて活動する

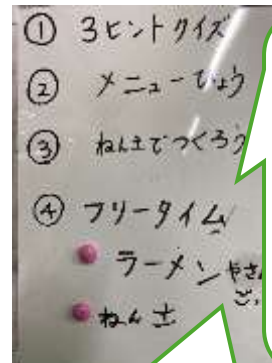


平仮名と片仮名の表はラミネートして、裏にマグネットを貼って、フックに下げている。
(場の構造化、視覚化)



平仮名カードを並べることで、イラストを文字にできた達成感を感じることができる。また、ホワイトボードにペン書きすると、ペンの太さや消しやすさから抵抗感が軽減できる。
(スモールステップ化、感覚の活用)

○ 学習メニューを提示し、最後にフリータイムを設定する



提示したメニューは、その項目を終えたら消していくと、児童は達成感を感じることができる。(時間の構造化)

学習の後半に、フリータイムを設定し、その内容を自己決定させることにより、モチベーションを保ちながら活動することができる。(時間の構造化)

○ 遊んでいるように学ぶこと(練習)ができる教材の工夫

市販の玩具を使って、清音1文字に対して♡のボタンを押して音を1回鳴らすという活動を繰り返し、文字数と音数を一致させていくことにより、パソコンのキーを決まった回数打つことを目指している。また、濁音や拗音、促音、長音の感覚も育ってきている。(焦点化、感覚の活用)



期待される効果

- ・遊んでいるような感覚で、「またやりたい。」「もっとやりたい。」と意欲と達成感を感じながら学びを深めていくことができる。

7

みんなが「分かる」、「できる」授業づくり取組事例 見通しをもつことが難しい児童生徒への指導の工夫

取組事例⑫

落ち着いて授業を受けることが難しい

場面・教科

各教科

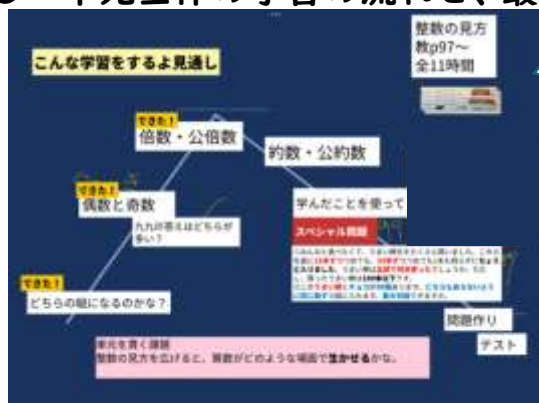
困難の背景として考えられること

- ・次に何をするのか、どのようにするのかという見通しをもてず不安になる。
- ・なぜこの活動をするのかがよく分からず、学習意欲がわからない。

授業における指導方法 の工夫のポイント

⑤ 時間の構造化 ⑥ 焦点化 ⑨ 視覚化

○ 単元全体の学習の流れと、最終的に解けるようになってほしい問題を提示

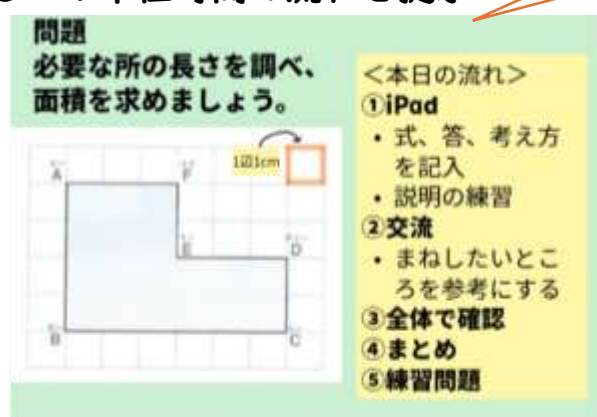


どのような学習を行うかという見通しがもてるだけでなく、「一つ一つの学習を積み重ねることで、最後の問題が解けるようになる」ということが分かる工夫（時間の構造化、視覚化）

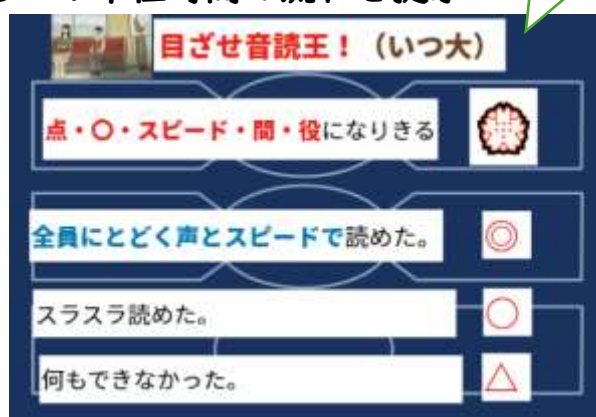
1 単位時間の流れを電子黒板に提示し、次に何をするのか分かることで、安心して学習に取り組むことができる工夫（時間の構造化、視覚化）

この活動で「何ができるようになればよいのか」が分かる工夫（焦点化、視覚化）

○ 1 単位時間の流れを提示



○ 1 単位時間の流れを提示



期待される効果

- ・落ち着いて授業に向かうことが難しい児童だけでなく、全ての児童が取り組むことや目指すことに対して見通しをもつことにより、意欲的に学習活動に取り組むことができる。

意欲が低く、学習が遅れがちになる

場面・教科

各教科

困難の背景として考えられること

- ・見通しをもちにくく、課題を理解して取り組むことが難しい。
- ・聴覚よりも視覚優位で、耳で聞いただけでは忘れることが多い。

授業における指導方法
の工夫のポイント

- ⑤ 時間の構造化 ⑥ 焦点化
⑧ スモールステップ化 ⑨ 視覚化
⑩ 感覚の活用 ⑪ 共有化 ⑫ 学習方法の選択

○ 1人1台端末の効果的な活用



児童が自分の考えを表現して気持ちを伝え合うことができるよう、1人1台端末を活用して考えを共有し、教え合う場を設定する。(共有化)



児童が運動のポイントを視覚的に捉えることができるよう、動画を撮影し、目で見て理解する時間を設ける。
(視覚化、感覚の活用)

○ 学びのゴールの自己決定



＜掲示物の記載例＞

- ① 問題を解く
- ② 丸付け&答えを写す
- ③ 間違いを分析する
- ④ 間違いを直し直す
- ⑤ 違う問題でも使う

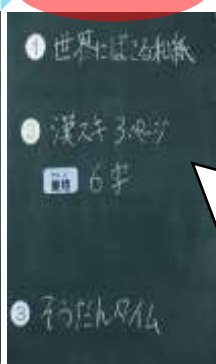
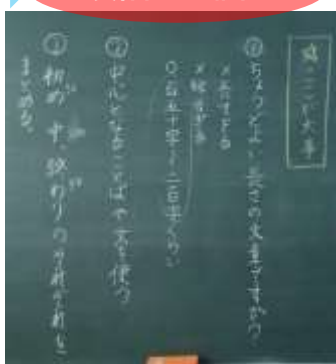
児童が、1単位時間におけるゴールと見通しをもつことができるよう、難易度の異なる活動内容を記載した掲示物等を活用して、ゴールや活動内容を自己決定させる。
(学習方法の選択)

○ 課題の解決に向けた段階的かつ細やかな支援

課題の提示

具体化・意欲化

手順化



児童が学習課題や活動内容を具体的にイメージしながら本時の見通しをもったり、活動への意欲を高めたりすることができるよう、抽象的な言葉ではなく具体的な言葉を用いて板書したり、情報を精選して伝えたりする。(時間の構造化)

児童の実態に応じた題材を取り上げたり、活動の手順を示したりする。(焦点化、スモールステップ化)

期待される効果

- ・視覚的に捉えたり、見通しをもったりすることで、課題に対して意欲的に取り組むことができる。
- ・考えを表現し、教え合う場や、学びへの自己決定があることで安心して授業に参加することができるとともに、学習への理解も深めることができる。

できないことへの不安が強い

場面・教科

各教科、学校生活全般

困難の背景として考えられること

- ・分からないこと、困っていることを他者に伝えることに不安を感じている。
- ・自分ができないこと、分からないことへの向き合い方や自己理解が難しい。

授業における指導方法
の工夫のポイント

- ④ 学級内の相互理解 ⑤ 時間の構造化 ⑥ 焦点化
⑧ スモールステップ化 ⑨ 視覚化

○ 活動内容と到達点の見通しの明確化

- ・何のためにこの活動を行うのかといった活動内容のねらいを明確にし、どのような手順や段階を経て行うのかといった取組過程や思考過程を図示したり、実演したりしながら提示する。
- ・活動の到達点（内容的、時間的）を具体的に示す。

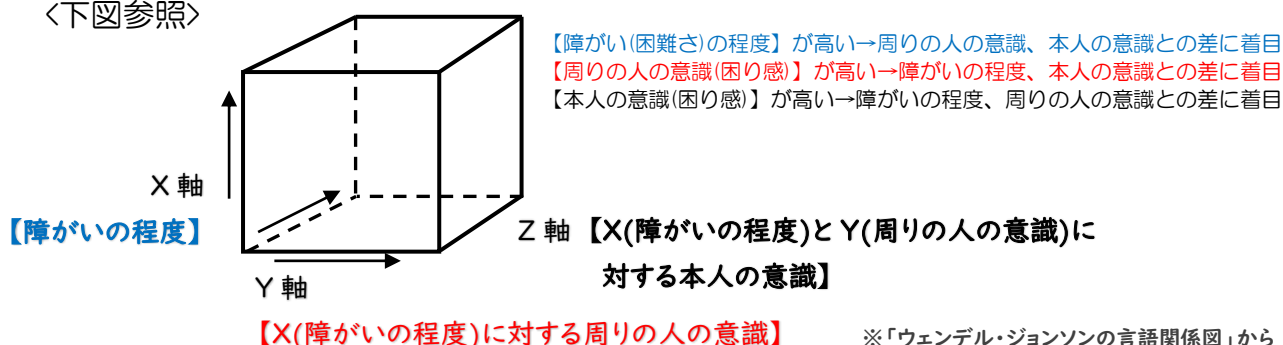
○ 「分からない」「教えてほしい」というヘルプサインを、教師だけでなく他児へ伝えられる関係性づくり、雰囲気づくり

- ・教師が、分からないことや苦手なことを臆せず話題にしたり、子どもたちから教わる、聞くことを行ったりし、意図的にモデルとして示す。
- ・指導や指摘、注意が必要な場合は、伝え方等を工夫しながら最小限とし、同時に「安易に大丈夫と言わず傾聴しながら児童の思いに共感する」「具体的な姿を取り上げ児童の望ましい言動を認める、褒める」等、教師から肯定的な関わりを増やす。

○ 画一的な児童理解とせず、その子の認知傾向や困り感を校内教職員と共に多角的な実態把握を行い、指導に生かす

- ・子どもにとって「問題と捉えられること」は、「障がい（困難さ）の程度」、「周りの人の意識（困り感の有無）」、「本人の意識（困り感の有無）」を合わせて考えることが大切である。

<下図参照>



期待される効果

- ・支援者が上記の視点を日常的に意識することで、子ども自身が「自分の言動を受けとめてもらえる」「困った時には伝えられる相手がいる」「自分の力で取り組める」という安心感をもつことができる。

活動の見通しをもつことが難しい

場面・教科

各教科、学校生活全般

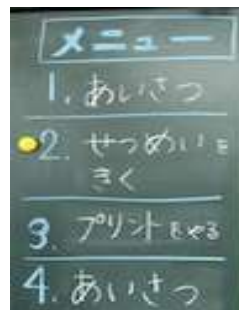
困難の背景として考えられること

- ・指示や説明の理解が聴覚情報だけでは難しい。
- ・活動に見通しをもつことが難しく、不安になり、落ち着かなくなる。

授業における指導方法
の工夫のポイント

③ ルールの明確化 ⑤ 時間の構造化 ⑨ 視覚化

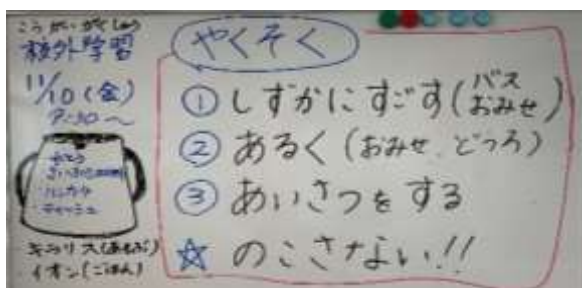
○ 見通しがもてる提示



授業の流れを提示するとともに、今どの場面に取り組んでいるか確認できるよう、磁石を置くなど提示方法を工夫（時間の構造化、視覚化）

1日単位だけでなく、1か月単位でも予定が分かるように掲示することにより、先の見通しがもてるよう提示を工夫（視覚化、時間の構造化）

○ 視覚的に分かりやすい提示



校外学習の日時や約束事を明記することにより、見たい時に確認することができ、安心して活動に参加できるよう提示を工夫（ルールの明確化、視覚化）



質問できる回数を視覚的に提示することにより、落ち着いて授業に参加できるよう提示を工夫（ルールの明確化、視覚化）

期待される効果

- ・学級の教室環境や授業の流れについて視覚的に見通しがもてることにより、全ての児童が安心でき、様々な活動に集中して取り組むことができる。

授業中ルールを守ることが難しい

場面・教科

各教科

困難の背景として考えられること

- ・ルールをすぐに忘れてしまう。
- ・見通しがもてないため、落ち着いて授業に取り組めない。

授業における指導方法
の工夫のポイント

③ ルールの明確化

⑥ 焦点化

⑨ 視覚化

○ 始めに必ず本時の学習内容、ルール、ポイントを提示し、みんなで確認

ルール

- ・友達が発表している時は喋らない
- ・すぐ発表できない時はパスをする

学習規律をみんなで確認する工夫
(ルールの明確化)

ポイント

- ・ルールを守って活動する
- ・テーマに合った話をする

授業のねらいを絞り、本時での目標をみんなで確認する工夫(焦点化)

学習内容

- 1 ジャンケンで始めにカードを引く人を決める
- 2 カードを引き、そのテーマの話をする
- 3 順番に全員が発表する
- 4 全員が話し終わったら、隣の人がカードを引く
- 5 時間になったら、新しいカードは引かない

子どもたちがこの時間で何を行うのかが分かる工夫(視覚化)

○ 振り返りをして、ルールを守れたことを賞賛し、みんながルールを守って学習することの良さを確認

○ ルールが守れなかった児童にもできていた部分を認め、次回の課題を明確に伝える

○ 次の時間もみんなでルールを意識することを確認

期待される効果

- ・ルールを意識して活動できない児童はもとより、全ての児童がルールを意識しながら学習に取り組むことができ、学級での学習ルールの定着に役立つ。

【事例提供者】

・美唄市立東中学校	教諭	大 道 都 美
・千歳市立泉沢小学校	教諭	松 岡 千和子
・岩内町立岩内西小学校	教諭	田 村 裕 子
・苫小牧市立澄川小学校	教諭	山 内 由起子
・浦河町立堺町小学校	教諭	清 水 祥 子
・北斗市立上磯小学校	教諭	久 保 暁
・江差町立江差小学校	教諭	穴 戸 暢 宏
・東川町立東川小学校	教諭	岡 田 則 将
・留萌市立東光小学校	教諭	西 野 珠 美
・稚内市立稚内東中学校	教諭	工 藤 美 恵
・網走市立南小学校	教諭	成 田 明日香
・網走市立中央小学校	教諭	竹 村 さつき
・清水町立清水小学校	教諭	伊 東 宏 修
・釧路町立富原小学校	教諭	西 川 知 恵
・別海町立上西春別小学校	教諭	山 口 和 克

（所属は令和6年3月現在）

※事例は、令和5年度（2023年度）特別支援教育リーダー教員の先生方から提供いただきました。

【作成協力者】

- ・北海道教育大学函館校 教授 細 谷 一 博

通常の学級で実践できる！みんなが「分かる」、「できる」授業づくり取組事例

令和6年（2024年）3月発行

編集・発行 北海道教育庁学校教育局特別支援教育課

札幌市中央区北3条西7丁目